

だれもが住んでいて良かった、住み続けたいと思うまち岡山に
～今年も「つどい」で市政と暮らし、そして地方自治を語り合おう～

今年で19回目を迎える「市民のつどい」は、市政全体について市民や市職員など様々な立場の人が自由に議論できる場として、年々定着してきています。

この間、発達障害について考えたり、市立病院の役割やあり方、ごみ有料化問題、食の安全・安心など、その時々問題や課題を市民の問題として提示するとともに、市政へ提言することを行ってきました。そしてその中で市民全体の話題や議論になり、具体的に前進した課題、分野もあります。

また「つどい」は、各分野で活躍する人たちが集まり、議論する中で交流を深め、共に学び合うことができる場であり、個人や団体が幅広いネットワークをつくる場としても定着してきています。

3月11日の東日本大震災では、多くの命が奪われ、家が流され、今もなお苦しい避難生活を続ける人たちがいます。住民の命と暮らしを守る、自治体と自治体職員の存在、役割の大切さがクローズアップされています。住民自治の力をいかし、市民と職員の協働で、安心して暮らせる岡山市をつかっていくために、いろんな方向から議論し、学びあう事が一層求められています。

みんなで「つどい」に集まり、市政と暮らし、地方自治を語り合おう。

会場案内

9月3日(土)

前夜祭：さん太ホール
(岡山市北区柳町2-1-1)
Tel(086)803-8222

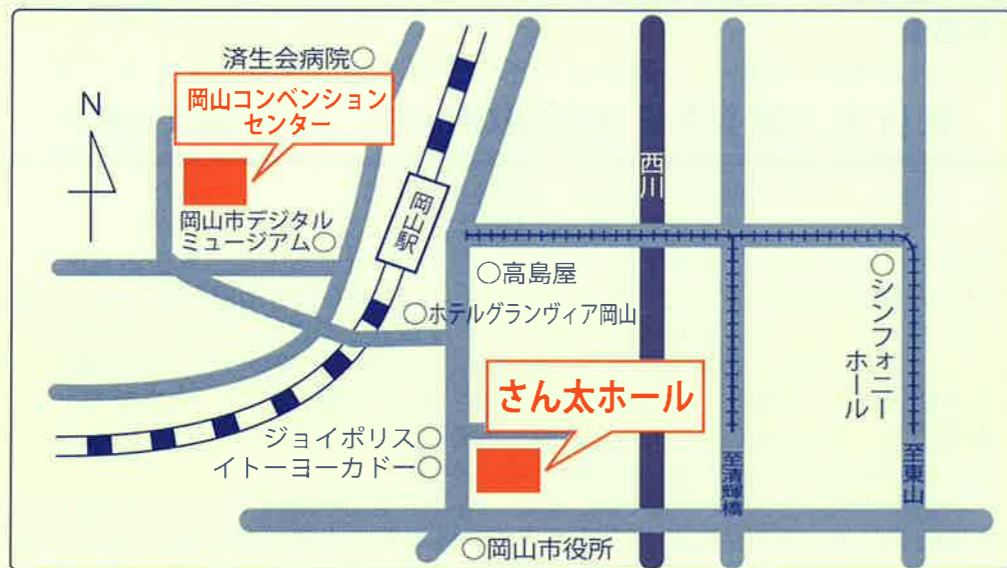
■JR岡山駅から徒歩15分(市役所筋を南へ下る)
路線バス5分(「山陽新聞社前」下車)

9月4日(日)

つどい：岡山コンベンションセンター
(岡山市北区駅元町14-1)
Tel(086)214-1000

■JR岡山駅中央改札口から徒歩3分

※1Fが総合受付となります。



※公共交通機関をご利用のうえ、ご参加ください。

ご参加にあたってのお願い

- ◆ 参加申込書を「つどい」事務局までお届けください(郵送、ファクシミリ、Eメール可) 繰り返しチケットと振込用紙をお送りします。
- ◆ 前売完売の場合、当日券販売がないことがありますのでご了承ください。
- ◆ 9月4日(日)の昼食については、会場でお弁当を販売します。ご利用の方は申込書にご記入下さい。
- ◆ 9月4日(日)は、保育室もご用意します。8月26日(金)までにお申し込みください。(保育料は子ども一人につき300円)

—愛する故郷・岡山をキーワードに、出会い、語り合おう—

私たちのまち・岡山を考える

市民のつどい2011

災害と市民生活を考える～市民と職員の協働で、安心して暮らせる岡山市をつくろう～

前夜祭

猪俣隆一監督作品

映画 書道ガールズ!!

—わたしたちの甲子園—

9/3(土)



会場：さん太ホール

岡山市北区柳町2-1-1

時間：①14時30分～ ②18時～

参加費	前売	当日
おとな	800円	1,000円
しょうがい者	500円	600円
こども(小中高生)	500円	600円
両日通し券(前売のみ)	1,300円	

記念講演「東日本大震災と日本経済の行方」

講師：森永卓郎さん
(経済アナリスト、獨協大学教授)



会場：岡山コンベンションセンター
(ママカリフォーラム)

岡山市北区駅元町14-1

9/4(日)

日程：暮らしと地域、岡山を語り合う6つの分科会
10時～13時45分
全体会 14時15分～15時15分
記念講演 15時15分～16時45分
参加費：前売 800円 当日 1,000円
両日通し券(前売のみ) 1,300円

連絡先：私たちのまち・岡山を考える 市民のつどい実行委員会 事務局 岡山市職員労働組合
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号 岡山市役所本庁舎9F
Tel.(086)232-9714 Fax.(086)232-5317 E-mail:sisyoku@icity.or.jp

暮らしと地域、明日の岡山を語り合う6つの分科会

9月4日(日) 10:00~13:45 ママカリフォーラム

分科会の概要	共同討論者
<p>◇第1分科会 教育・子育てを考える</p> <p>いのちをみつめることからはじめよう part 2 ~子どもとともに生きる~</p> <p>教育・子育ての原点に戻って「いのち」そのものをテーマに、語りあい、実践につながることを考えていきます。忍者になって街を遊ぶ!?で超有名な北島尚志さんをお迎えし、遊びを通して「響関」(響きあう関わり)するワークショップと講演をおこないます。子どもの「命の躍動」を見いだす大人の力を高めていきます。</p> <p>また、岡山で冒険遊び場やギャルママサークルなどでキラキラ輝く子どもたちと、それを支えている大人たちを映像で紹介します。(乞うご期待!!)</p> <p>子どもやおとなをめぐる課題も出し合い、「それでもやっぱり岡山の子どもたちもすごいね」と再認識しながら、子どもの育ちを考える輪を広げていきましょう。</p>	<p>北島尚志 (NPO法人あそび環境ミュージアム アフタフ・パーバン代表)</p>
<p>◇第2分科会 貧困・福祉と就労を考える</p> <p>地域でつくる新しいセーフティーネット~貧困の克服と絆の再生のために~</p> <p>近年、貧困層が増加しており、貧困問題は、就労問題だけに留まらず生活面をいかに地域で支えるのかという視点にまで広がりを持ってきています。そこで、新しく考えられている社会は、支え合いと活気のある社会です。これは、すべての人に居場所と出番があり、皆が人に役立つ喜びを大切にする社会です。社会から孤立する人々に対し社会的自立を支援する取組の推進を図り、雇用・生活・住居に関する総合的な対策を推進する必要があります。生活支援から就労支援まで一貫したサポートができる社会的な居場所をいかに作っていくことができるのか一緒に考えていきましょう。</p>	<p>難波利光 (下関市立大学 経済学部准教授)</p> <p>原田由美子 (京都女子大学准教授)</p>
<p>◇第3分科会 食と農・環境を考える</p> <p>東日本大震災から見えてくる、岡山の食と農</p> <p>東日本大震災は、津波などにより東北各地に甚大な被害を与え、今でも多くの方が復興に向けて懸命な努力を続けています。食や農についても、住民の栄養不足や偏り、生産・生活基盤の破壊など、深刻な問題が多く起こっています。</p> <p>翻って我が岡山市、もしかして他人事のように思っていないですか?今起きている問題をどれだけしっかり認識していますか?安全安心な食物は保証されていますか?ちゃんとした栄養管理で健康的な生活を送っていますか?そしてそれは次世代の子ども達に引き継がれるものになっていますか?改めて、岡山の食と農業を見直してみよう。</p>	<p>品部義博 (岡山大学教授)</p>
<p>◇第4分科会 防災とまちづくりを考える</p> <p>想定される危機と結びあうまちづくりを考える</p> <p>3月11日に発生した東日本大震災では津波により甚大な被害をうけ、多数の尊い命を失いました。岡山でも新たに予想される東海・南海・東南海連動型地震では想定以上の被害拡大が予測されます。岡山南部地域では地震と共に土地の液状化、津波に対しての防災対策と被災に備えるためにも結び合うまちづくりが求められます。分科会では既に地域ボランティアネットワークを検討している地域もあるもとの、地震で何が起きるのか、私たちにどんなことが求められるのかを参加者の皆さんと話し合いたいと思います。</p>	<p>下野克己 (岡山大学名誉教授)</p> <p>磯部作 (日本福祉大学教授)</p> <p>小川孝雄 (岡山県ボランティア・NPO活動支援センター)</p>
<p>◇第5分科会 平和を考える</p> <p>核兵器廃絶にむけ、みんなの知恵と行動力を</p> <p>2010年5月のNPT(核不拡散条約)再検討会議は、すべての国に「核兵器のない世界を達成・維持するために必要な枠組みを確立する特別の努力」を義務づけました。</p> <p>被爆国日本の国民として半世紀以上にわたる核兵器廃絶の署名・平和行進・原水爆禁止世界大会を継続して成功させてきた歴史と運動に確信をもって、今こそ核兵器廃絶の新しい大きな取り組みをはじめることが求められています。</p> <p>岡山市平和都市宣言(1985年6月29日)の理念を実現させるための具体的行動はこれからが本番です。みんなの知恵と行動力で核兵器のない社会をつくるためにともに考えましょう。</p>	<p>平井昭夫 (原水爆禁止岡山県協議会)</p>
<p>◇特別分科会 岡山の文化を考える</p> <p>永瀬清子さんの作品と生き方を通じて岡山の文化を考える</p> <p>19回目となる「市民のつどい」として今回初めて開く『文化を考える』分科会(特別分科会)です。第1回目は、岡山が生んだ偉大な詩人・文学者であり、社会活動や平和運動にも積極的に関わり、大きな足跡を残した永瀬清子さんを取り上げます。</p> <p>分科会では、「永瀬さんの光は今も」と題した講演、愛する故郷をはじめ、広大なそして永遠の宇宙観を表現した数々の詩の朗読や合唱を聴き、直接作品に触れます。そして、参加者で感想を出し合い、意見交換を行いながら、永瀬さんの作品とその生き方を通じて「岡山の文化」を考えます。</p>	<p>中桐美和子 (前岡山県詩人協会会長)</p> <p>竹入ひかる子 (朗読グループ・白萩会代表)</p>

前夜祭映画

猪俣隆一監督作品

書道ガールズ!!

—わたしたちの甲子園—

9月3日(土)①14:30~②18:00~ 2回上映 さん太ホール

少女たちのひたむきな思いが、ニッポンを元気にする!
~キュートでエネルギッシュな女優たちが贈る青春感動ストーリー~



折から続く世界的不況で、日本全体に暗〜いムードが立ちこめる昨今。日本一の紙の生産高を誇る“紙の町”、四国中央市にもどんよりと暗雲が漂っていた。どんどんさびれていく、大好きな街。

そんな街の活気を取り戻そうと、書道部の部員たちが立ち上がる。彼女たちが取り組むのは、「書道パフォーマンス」!

部員たちの不協和音や周囲の大人たちの反対…様々な困難が起こる中、町おこしのために頑張るひたむきな姿と熱意は、やがて大きなムーブメントとなり、大人たちの心にも忘れていた活力を呼び起こす。

何かに、がむしゃらに、一生懸命になれることの素晴らしさ。本作に込められているのは、すべての世代の人に向けた、そんなポジティブなメッセージ。

観たら、「明日も頑張ろう」と絶対元気になる!

全体会・記念講演

9月4日(日) 14時15分~ 岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)

「東日本大震災と日本経済の行方」講師 森永卓郎さん

「ひとつといえることは、お金を増やし、ひたすら成長を求める生き方というのは、すでに世界のメインストリートではなくなりつつあるということです。誰かが犠牲になって会社や国が繁栄するのではなく、みんなが自分なりの幸福を手にすることができる社会、それをいち早く実現するのが、本当の意味での先進国であり、世界における日本の役割ではないでしょうか。もう日本は経済成長を国家目標のように考えるのはやめたほうがいいのではないのでしょうか。名目GDPが2~3%成長してさえいけば、無理してGDPを伸ばす必要はありません。それよりも、若者もお年寄りも、みんなが自分の働きたいように働き、都会にいても地方にいても生活を楽しめる、そういうヨーロッパ型社会に少しずつ変わっていくことです。みんなが新自由主義の呪縛から解放され、お金や成長以外の価値観があるのだと気づく日が一日も早く訪れることを、私は願ってやみません」(著書「ニュースのウラ読み経済学」から)

「モリタク」の愛称でテレビやラジオ等で親しまれ、格差社会の到来をいち早く予測した人気経済アナリスト。自民党小泉政権が日本に持ち込んだ新自由主義が、日本人の生活や考えをどのように変えてしまったか、東日本大震災後の経済政策や社会のあり方はどうあるべきか。経済アナリストとしての鋭い分析と歴史の検証から、平和と平等を守る人たちが、豊かに暮らせる社会になるための提言などを熱く語っていただきます。ご期待ください。

森永卓郎さん(経済アナリスト、獨協大学教授)プロフィール

1957年東京生まれ。1980年東京大学経済学部卒業、日本専売公社に入社。日本経済研究センター(出向)、経済企画庁総合計画局(出向)、三井情報開発(株)総合研究所、(株)三和総合研究所(現三菱UFJリサーチ&コンサルティング)を経て、現在、経済アナリスト、獨協大学経済学部教授。専門は、マクロ経済・計量経済・労働経済・教育計画。主な著書に『「価値観」社会』(角川SSコミュニケーションズ)、『森永卓郎の年収復活!』(マガジンハウス)、『「騙されない!」ための経済学』『「民主不況」を生き抜く経済学』(ともにPHP研究所)など多数。主な出演番組:TBS「がっちりアカデミー!!」、YTV「情報ライブミヤネ屋」、文化放送「大竹まことゴールデンラジオ!」、NHK第1「ラジオあさいちばん・ビジネス展望」など。

